



# ち★ネット!

2023年3月発行  
 地域医療ネットワークの会事務局  
 聖マリアンナ医科大学病院  
 メディカルサポートセンター内

「顔の見える地域連携」を目指した多職種での情報交換と学びの会  
 それが、地域医療ネットワークの会です!

2023年3月1日 第43回 地域医療ネットワークの会

## 『抗がん剤治療患者の在宅管理』

抗がん剤治療を受ける患者は年々増加し、病院と地域でサポートするケースも増えています。副作用の症状が落ち着かないときに使う薬のタイミングや抗がん剤投与後の生活をどう過ごしていたかなど、確認や相談したいのだが連絡をすることをお互いに躊躇してしまうことがあります。『抗がん剤治療患者を地域全体で診る』ための連携や情報共有のあり方を確認しました。今回はZoomで開催し23施設71名の参加がありました。

### 【総合司会】

地域医療ネットワーク世話人 聖マリアンナ医科大学病院 久保田 万梨

### 【開催の挨拶】

地域医療ネットワーク世話人 聖マリアンナ医科大学病院 井上 健男

### 【これだけは知ってほしい! 抗がん剤治療中の在宅ケアについて～腫瘍センターでの取り組み～】

聖マリアンナ医科大学病院 腫瘍内科医師 伊澤 直樹氏

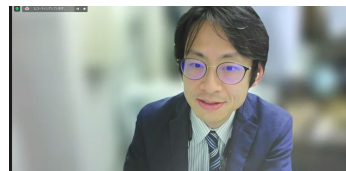
聖マリアンナ医科大学病院 腫瘍センター看護師副師長 濱田 尚美氏

### 【意見交換会/座長】

地域医療ネットワーク世話人 訪問看護ステーションゆらりん 林田 菜緒美氏

今回、抗がん剤治療患者の在宅管理について、事前に各訪問看護ステーションに対応で困ること、疑問に思うこと、医師や病院看護師に聞きたいことを事前にアンケートを行い、当院の腫瘍内科伊澤医師、腫瘍センター濱田看護師より、お話をいただきました。

伊澤医師からは、今後は更に高齢者とともにがん患者の増加が予測される。しかし、病院で受け入れられる患者数には限りがあり、病院では専門的治療を行い、在宅では症状管理をする事により地域との連携が重要であること、抗癌剤治療の有害事象の種類、副作用や支持療法について、注意が必要な場合など具体的な対応について話がありました。訪問看護師から直接医師へ連絡することも可能であることを話されました。



濱田看護師からは、『その人らしさを大切に安全に医療を提供する』腫瘍センターの取り組みについてお話しされました。腫瘍センターでは患者・家族へ『わたしの治療日誌』の記載の仕方・副作用の対応などを指導していること、当院のホームページではインフューザーポンプの管理についてダウンロードできることの紹介がありました。腫瘍センター看護師も在宅で過ごす患者が気になるため訪問看護師と共有したいと感じており、訪問看護も同じ思いであることが事前アンケートで明らかとなりました。できる限り情報共有をタイムリーにおこない、その人らしさを支える看護の実現にむけて取り組んでいきたいと展望をお話しされました。

意見交換では、副作用の薬のタイミングの問い合わせや退院後の様子・生活背景など聞きたいがお互いに遠慮し情報共有ができないと感じる意見がありました。当院で抗がん剤投与の患者問い合わせを受けており、遠慮なく電話・FAXで問い合わせができること。また訪問看護師さんへの問い合わせも可能であることをお互いに確認しました。腫瘍センターでは『わたしの治療日誌』を抗がん剤治療患者に渡しているため訪問時に活用したり気になる情報を記載することで早期の対応や患者指導にも繋がった事例を紹介しました。終了後のアンケートからは「病院へ気軽に電話していろいろ相談したり情報提供が出来るのが分かり安心した」「副作用の観察点が理解できました。頼りになる話を聞けて心強く感じる、在宅訪問でも力になれる所があれば対応させていただきます。」という意見が多く聞かれました。『その人らしさを支える看護の実現に向けて!』お互いの連携強化するきっかけになる会でした。

